

1.7 図書館情報専門学群

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者	受験者	合格者	入学者		
	1年次	150 ※ -	612 ※ 1	497 ※ 1	163 ※ 1	156 ※ 1		
編入学・再入学	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -			
学生の進路 (人)	卒業者 ※ -	就職者 ※ -	就職者の内訳			研修医 ※ -	進学者 ※ -	その他 ※ -
			企業 ※ -	教員 ※ -	公務員 ※ -			
	-	-	-	-	-	-	-	

・※は外国人留学生を内数で示す。

1 図書館情報専門学群の活動

[教育]

- (1) 第一期の学生156名を迎え図書館情報専門学群としての教育を開始した。
- (2) 総合科目として学群開設の2科目を全学に提供することを行った。
- (3) 本年度学群経費により、全ての教室にビデオプロジェクターの設置を行った。
- (4) 教育に関しては常置委員会である学群教育課程委員会を月に1回開催し、種々の問題に関し対応を図っている。

[学生生活]

- (1) クラス担任教員において学生との接点とする活動は十分に機能している。また、クラス制度のもとに、1学期の「フレッシュマン・セミナー」に続き、2学期に「教養と科学」を履修させることで、1年次生としての大学生活への円滑な定着を図っている。
- (2) 学群独自の「学生生活実態調査」を実施することで、「自由記述」欄において学生からの要望を調査した。
- (3) 学群長、副学群長、1年次のクラス担任教員および支援室職員とクラス代表との懇談会を1回実施し、学生生活全般に関し意見交換を行った。平成16年度以降は回数を増やすことを予定している。
- (4) 学生生活全般に関しては常置委員会である学群学生委員会を定期的に開催し、種々の問題に関し対応を図っている。

2 教員の教育業績評価の状況

TWINSを用いた全学共通の「学生による授業評価」の他に、学群独自の「学生による授業評価」を全ての開設科目について実施した。結果については、各学期、各科目ごとに集計し、平成16年4月に教員に配付する。

3 自己評価と課題

- (1) 初年度である専門学群の教育・学生生活支援に関しては、順調に滑り出していると評価できる。
- (2) 「学生による授業評価」の結果では、概ね高い評価が得られているが、なお改善すべき点もあり、平成16年度からの新カリキュラムの施行において、カリキュラム構造の改革とともに、内容の更なる充実を図る必要がある。
- (3) 入学志願者の倍率が、推薦入試、個別前期、個別後期ともに低下しており、その原因を精査するとともに、学群独自の広報活動にも工夫を行う必要がある。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関しては平成15年度はさしたる活動を行わなかったが、平成16年度以降は「授業公開」等に積極的に参加する必要がある。

4 その他特記事項

- (1) 法人化後の専門学群教育の充実のために、現行カリキュラムの全面的な見直しを行い、全く新たな発想に基づき、平成16年度から実施する新カリキュラムを策定した。
- (2) 平成16年度から筑波大学に移行する図書館情報大学学生に対する教育課程および学生生活全般に関して、筑波大学の諸規則との整合・調整を行った。